

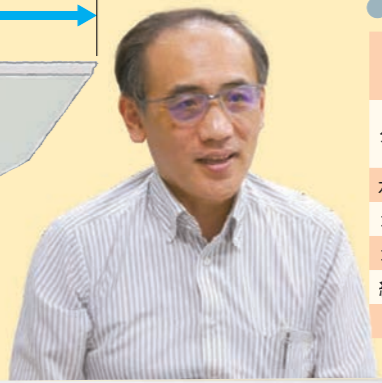
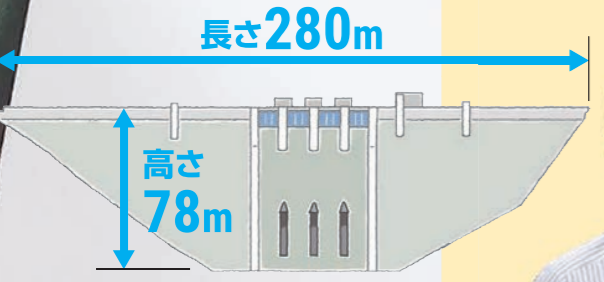
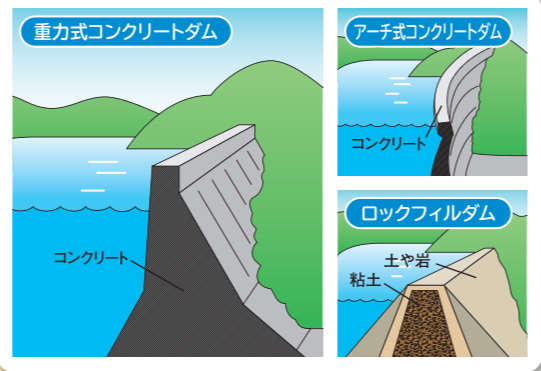
あれこれ深掘り Q & A

蓮ダムについての素朴なギモンから、大雨災害に対してどんな体制が取られているのかまで。改めて知りたいことを蓮ダム職員に質問！管理係の木村さん、電気通信係の橋本さんにお答えいただきました。



Q1 蓮ダムは国内の他のダムと比べてどんなダムですか？

蓮ダムは、2021年に竣工30周年を迎えたダムで、他のダムと比べると比較的新しいダムといえるかもしれません。治水(洪水対策)だけでなく、利水(水道水などに必要な水を確保する)、発電などの機能を持つ多目的ダムです。また、水圧をダム堤体の重さで支える重力式コンクリートダムです。



● 蓮ダムと近隣の多目的ダム

ダム名	蓮ダム (三重県松阪市)	宮川ダム (三重県多気郡)	君ヶ野ダム (三重県津市)	青蓮寺ダム (三重県名張市)
ダムの形式	重力式 コンクリート	重力式 コンクリート	重力式 コンクリート	アーチ式 コンクリート
水系(河川)名	榑田川(蓮川)	宮川(宮川)	雲出川(八手俣川)	淀川(青蓮寺川)
堤高(m)	78.0	88.5	73.0	82.0
堤頂長(m)	280.0	231.0	323.0	275.0
総貯水量(m ³)	32,600,000	70,500,000	23,300,000	27,200,000
竣工	1991年	1956年	1971年	1970年

Q3

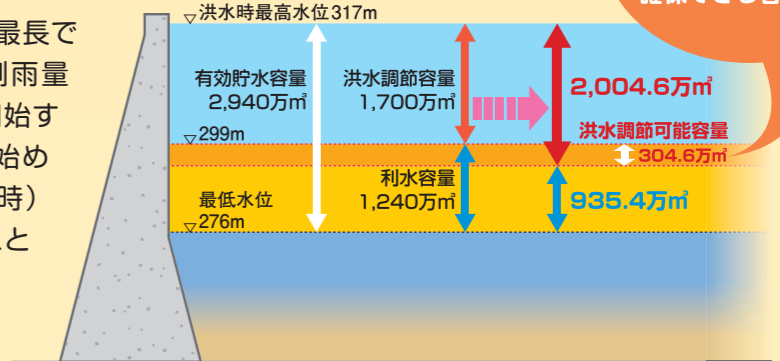
令和2年度より、蓮ダムでは「事前放流」の制度を始めています。事前放流とはどんなもので、どんな目的でおこなうのですか？



事前放流とは、大雨が降り、緊急放流を実施する恐れがある場合にダムに貯められる容量を最大限活用するために、事前にダムの水位を下げることで、大規模化する洪水被害の防止や軽減を目的としています。

事前放流は、蓮ダムの上流地域で基準となる雨量を上回る大雨が予想された場合等において実施の判断とし、実施する場合には、三重県、松阪市、多気町、中部電力ほか関係団体に通知されます。

また、事前放流は最長で3日前までの予測雨量をもとに放流を開始するため、雨が降り始める前(天候がいい時)から放流を行うことがあります。



Q2

なぜ、大雨の時にダムが放流していることがあるのですか？川の水がさらに増えてしまうのでは？と気になっています

蓮ダムでは、大雨が降っても一度にたくさんの水が流れて氾濫しないようにするために、ダム湖に水を貯めて下流の川の水量を少なくしています。

雨が多い6月から10月は洪水に備えてダム湖の水位を下げますが、降った雨を全部貯めようとすると、ダム湖から水が溢れてしまったり、もっと大きな洪水が来たときに、水を貯められなくなってしまいます。このため、大雨が降っているときは、下流での氾濫被害を少なくするために、ある程度ダムから水を流しながら水を貯め込みます(図1・図2)。

ダム湖に水を貯めたままでは、次の洪水の時に水を貯める事ができなくなるので、洪水が終わった後に下流河川の状態を見ながら少しずつ水を流し、次の洪水に備えるために、ダムの水位を下げておきます。

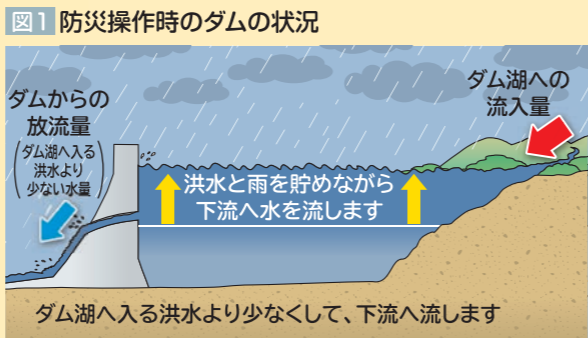
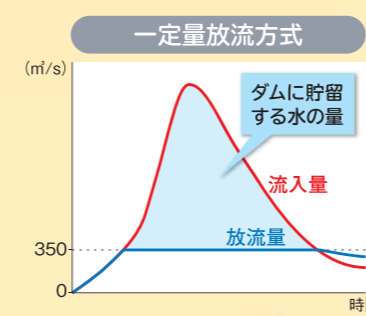


図2 蓮ダム防災操作時の洪水の流入量と放流量の関係



Q4

災害時に、ダムや川の状況を知る方法には何がありますか？



蓮ダムでは日頃より、公式サイトやSNSを使って情報を発信しています。公式サイトには、「国土交通省 川の防災情報」サイトへのリンクや、蓮ダムライブカメラページ、公式Twitterへのリンクがありますので、災害時にはぜひご利用ください。



国土交通省 川の防災情報サイト



ライブカメラ



蓮ダム管理所 公式Twitter

蓮ダム公式サイト